

梅鶯仏教壮年会報

第95号
2012年
4月22日

新会長に

田中善博氏

副会長 森勝昭氏
副会長 田中直樹氏
監査役 北村幸雄氏
監査役 北村正隆氏

去る四月七日に、平成二十三年度梅鶯仏教総会が開催され、役員任期満了に伴う新役員が選出されました。
任期は、平成二十七年三月三十一日までの3年間です。



なお総会では、つぎの事項も確認されましたので、ご報告致します。

○例会はこれまで夜7時から開始していましたが、皆さんの参加の便宜を考慮して、夕刻の5時より開始する。
○法輪寺で厳修される親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に、梅鶯仏教が協賛厳修することをお願い出る。
○本年度、梅鶯仏教結成10周年であることから、記念となる行事を行う。

平成二十四年度行事予定

5月22日	7月27日	9月29日	11月06日	12月03日	1月07日	3月00日
(日)	(日)	(土)	(土)	(日)	(日)	(土)
例会	例会	親睦旅行	大遠忌法要	除夜会	役員会	総会

よりそう影

日の光

おてんと様のお使いが揃（そろ）って空をたちました。
みちで出逢ったみなみ風、
「何しに、どこへ」とききました。
一人は答えていいました。
「このへ明るさ」を地に撒くの、
みんながお仕事できるよう。
ひとりはおさも嬉しう。
「私はお花を咲かせるの、
世界をたのしくするため。」

一人はやさしく、おとなしく、
のぼる反（そ）り橋かけるの
よ。」

残った一人はさみしう。
「私は影」をつくるため、
やっぱりしよにまいます」

金子みすゞ

四人のお日様のお使いです。
最初の三人は、お日様のお使
さ「清らかさ」を与えるため
と元氣です。
「影」をつくるのが役割です。
「影」をつくるのが役割です。
やれど光には影がつきものな
のです。
嫌でも一緒にいていかなば
ならないのです。
だれもが幸せを願うけれど、
どうしても思い通りにならない
ことも起こるのです。
仏教では「人生は苦なり」と
示します。
人生には逃れることの出来な
い苦しみがあることを、金子み
すゞさんはまっすぐに見つめる
のです。

前号からのつづき

前号で、500年ごろの
仏教の時代観を述べました
が、また『正法』『像法』
『末法』の三時説という時
代観もあります。

《正法の時代》 仏滅後五百年の間↓教（教え）と行（修行）と証（さとり）の三つが備わった時代。

《像法の時代》 正法後の千年間↓教と行があつても証を得る者が無い時代。

《末法の時代》 像法後の一
万年↓ただ教えだけが残る

○末法の時代

いかがでしょうか。今の私たちの時代は「闘争堅固の時代」と呼ばれ、仏法が衰退し闘争ばかりが繰り返される「末法の時代」に当たるので、現実を見ると思わずうなずかざるを得ません。

道綽禪師の時代も、天災や飢餓が相次ぎ、戦争が絶えることなく、人々は苦しみにあえ



い
で
い
ま
し
た。

道綽禪師が出家した翌年には道綽禪師の国が隣国に滅ぼされ、その上、仏教は厳しい弾圧を受け、仏像は壊され、教典は焼かれ、寺院の財産は国家に没収された時代です。

その後、随から唐の時代へと變遷しますが、戦乱が続く動乱の時代の中で、道綽・禪師は末法の悲しみを深く肌で感じ取られ、末法の時代に相應しない教えは浄土教より他にないかと決せられたのです。

○すべての時代に通じる
万能の教え

陀・法・時
 仏・像・代
 による救い
 のみか
 なる正

えなのでしようか。
 そのでは、この私の力によ
 るものでは、ないからです。
 のすべて阿弥陀様の本願力
 の働きによるものであるか
 ら、私の側の時代や場所に

ではとられないの
です。

の力でも、自分
になることも仏



きない私たちを見かねて、
 どうしても救わずにはおか
 れない大悲痛な誓願をたて
 られ、その救いの道を完成
 されて私たちの与えて頂い
 ているのが如来の名号、南
 無阿彌陀仏なのです。

親鸞聖人は、

三不三信誨慇懃
像末法滅同悲引

一生造惡値弘誓
至安養界証妙果
「正しい本願他力の信心
の道を丁寧にし、像法・
末法・滅法のいかなる時代
であっても、同じように全

ての衆生を大悲心をもつて
浄土へ引き寄せる下さる。

たとい私たちが一生の間、
悪を造つたとしても、ひと
たび阿弥陀さまの本願にで
あつたならば、必ずお浄土
に至つて、悟りを得ること
ができる」と、詠われてい

○正しい信心とは

道綽禪師は「安樂集」の
中で、「池の氷にお湯を掛
けて穴を空けても翌日にな

湯れば、そのお

らに盛り上がり
つて氷となり



ふさがってしまう」という

つまり、自力で「正しい

信心」を得る（氷を溶かす）
ことは難しいが、阿彌陀様

の方で用意して下さっている。地方の言心であらば、い

かなる時代であつてもお浄

土へと引き寄せられることが
できるのです。

○一生悪をつくれども

また同じく「悪臭を放つ
伊蘭の林の中に、
梅檀（せんとん）

だん) の木が芽生えれば、

う譬え話や、「暗闇に光が

差し込めば、暗闇の時間の
永さには関係なく明るくな

る」との譬え話により、絶

文作の引附こそ原に和
たちの煩悩がどれほど深か

ろうとも、また私の生き様がどのよう
に罪深かろうと

も、ひとたび阿弥陀様の本願に出会ったならば、必ず

浄土に往生して、悟りを得

る。ことかできると述べて頂いていのです。

親鸞聖人はそのこ
とを悦びのうたにし

ておられます。

一月例会住職法話より

